

「2022年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部3年 山下大碧

今回の派遣プログラムでは、特に現地での出会いを通じて自身の視野が広がり、海外でのコミュニケーションに対する意欲が刺激されました。本プログラムの中では現地学生との交流の機会は非常に少なかったものの、もともと京都大学に留学していた友達にいろんな現地の学生とつなげてもらったり、水上マーケットや少し遠いところにある寺院などに連れて行ってもらったりなどし、様々な場所で、タイの学生の価値観や、日本とタイの生活の違い、宗教が日常生活に与える影響、学生の就職活動や経済状況の違いなど、タイについて、マクロ的に知見を深めることができました。セミナーと一緒にする学生と話す機会が授業時間としてなかったのが少し残念でしたが、個人的に声をかけてセミナー発表のチュラ大学生とタイ料理を前に議論を交わしたのは大変いい経験になりましたし、彼らが所属するサッカーチームに参加させてもらって、タイ人40人中日本人2人でコミュニケーションをとりながらプレーした経験は、国際交流の醍醐味として、彼らの考え方やコミュニケーションの取り方、楽しさの源泉に触れる非常に良い機会になりました。授業については、タイ語の先生がすごく優しくて面白く、実用的なタイ語を丁寧に教えてくれたのが印象的で、タイ語を日常のコミュニケーションに使うことで見えてくる話し方の違いや価値観の違いを学ぶいい機会にもなりました。一方で、現地で行うタイ語の授業と日本で留学生にやっていただいたタイ語の授業がほぼ同じだったという側面もあり、現地に着いてすぐタイ語を使うわけではないため、無理に日本にいる時にタイ語の授業を行う必要性はないとも感じました。単位認定のための要件として授業時間を確保したいならば、セミナー準備の時間にする、2週間の予定設計に自分たちも関わるなどした方が、学生の国際交流や自立した人材の育成という観点では、プログラムは有意義なものになると思います。海外経験については、もともとフィリピンとインドネシアにはいったことがあり、カナダに留学していましたが、これまでとはまた違った学びがありました。特に、文化が社会に与える影響を、現地の学生とのコミュニケーションや、出先の観光客とのコミュニケーションで学べたのは最も大きかったと思います。私は来年イギリスに留学するのですが、セミナーで一緒になったタイの学生が、イギリス経験のある学生だったので、タイとイギリスの違いや現地の生活の様子を聞くことができたのが、個人的には面白かったです。

プログラムの内容については、タイという国について、文化や歴史、観光、経済、コミュニケーションなどを、座学と実学の両面から学べたのが非常に良かったです。特に、現地の学生と観光地を回ったり、ひとつのテーマを置いて議論したりする機会は非常に貴重で、コミュニケーションの中で、自身の視野を広げ、現地の方の言葉でその国の伝統や価値観を学べるのは大変貴重なものでした。しかし、それゆえに、特に文化や歴史の授業に関しては、座学で学ぶよりも、実際に現地に出向いて活動する方がはるかに文化理解は深まるとも感じたので、このプログラムを今後より良いものにするために、授業内外で現地の学生との接点を増やす、スケジュールに余裕を持たせる必要があるのではないかと感じました。要は、日本人だけがタイに15人集まって、日本語で授業を受けることで学べることはあまりなくて、それなら日本でいいのではないかと感じてしまったということです。全体的に学生が受動的な状況に置かれ過ぎている側面があるので、大人数であるがゆえに致し方ない部分はあるとは思いますが、より主体的に学びを深められるプログラムにすることで、各人の文化理解や人としての成長を促せるのではないかと感じました。

最後に進路への影響についてですが、現地でのいろんな学生とネットワークを作って、様々な学生とお互いの将来について語り合ったので、夢の実現に対する想いや、海外で働きたい、タイの学生と将来仕事がしたいという想いは一層高まりました。今まさに就職活動のピークに立たされており、来年度イギリスに行くことも決まっていますが、国際理解や英語力の向上といった部分に加え、どこでなにをやるのか、それによってどんな経験をしたいたいのか、どんなバリューを出したいのかということを考えさせられる良い機会になりました。タイの中心部バ

ンコクは比較的都市化が進んでいるものの、都市と都市の間は何もない田舎が広がっていたり、バンコクでも中心部から少し外れるとスラムに似たような光景が広がっていたり、各地で建設中の建物がたくさんあったりと、まだまだ発展の余地がある地域だと感じました。また、現地の雇用や物価についてみてみても、給与水準が日本の十分の一程度にもかかわらず物価は日本の 2/3 以上の水準であり、教育にかかる費用も日本とほとんど変わらないということが分かりました。現地の学生に聞いてみても、収入が少なすぎるからアルバイトをしない、タイでは就職しない、親からお金をたくさんもらわないと生活できないという話がありました。ここから、国内の給与水準や雇用体制が整っていないがゆえに、国内の人材を生かし切れていない、優秀な人材を海外に逃してしまっているという現状が見えてきました。これは非常にもったいないことで、タイの文化的な良さや価値観をより広く海外に普及させていくためにも、国内経済はますます重要度が高まっていく部分だと思います。ゆえに、現地の雇用を増やし、現地の優秀な人材を妥当な給与水準を担保できるような形で、現地のビジネスを創っていったらこれ以上のことはないなと考えるに至りました。